

## サマリー

### 経路依存、ロック・インとグローバル・エネルギー戦略

計量分析ユニット 需給分析・予測グループ  
研究主幹 奥村 憲博

エネルギー技術（その他の技術も同様）は、必ずしも最適なものが市場メカニズムを通じて選択されるわけではない。むしろ些細な出来事が技術の市場優位性の端緒を形成し（経路依存）、規模の経済・学習効果、Positive Feedback / Network Effects が存在する場合は、その自己強化メカニズムにより自己永続的市場支配（ロック・イン）に至る。地球温暖化対策が人類にとって禍根を残さぬ形で実施されるには、早急に現実的かつ robust なエネルギー技術 Path を示し、その実現に向けてグローバルに邁進することが求められる。そのためには、現実世界の経路依存性及びロック・インの惹起という市場特性を踏まえ、最適な技術選択を必ずしも行えない市場メカニズムに依存するのではなく、先進国等で既にロック・インしている化石燃料ベースのエネルギー技術からの脱却をどのように推し進めるべきなのか、まだ必ずしも先進国のように化石燃料ベースのエネルギー技術がロック・インしていない発展途上国等において持続可能なエネルギー技術をロック・インさせていくのかに焦点を当てたエネルギー戦略が必要である。本研究では、経路依存及びロック・インの存在及びそれらを配慮したエネルギー戦略の重要性を示した上で、経路依存及びロック・インに配慮した次のエネルギー戦略の基本的考え方を示した。